

技術解説

# 直売所向け花きの栽培

## ・・・ キンセンカの栽培 ・・・

JA 和歌山県農 営農対策部 辻 圭索

早春から初夏にかけて、光沢のある花を咲かせるキンセンカは、古くから仏花などを中心に栽培されています。

栽培は比較的簡単で、耐寒性があり、露地で切り花栽培が可能で、早春から初夏の直売所向け栽培に適した切り花のひとつです。今回は、キンセンカの彼岸出し栽培のポイントについて紹介します。



### 1 品種

切花に向く品種としては、オレンジスター、ゴールドスター、やしま芯黒、むらじなどがあります。いずれも 50～60cm の高性種で、大輪、多花、耐寒性があって作りやすい品種です。

#### 【オレンジスター】

光沢のあるオレンジ色の花色で、花卉の重ねがよく、草丈もよく伸びるので、切花栽培の主要品種となっています。

#### 【ゴールドスター】

花の色は鮮やかな濃黄色です。

#### 【むらじ】

オレンジ色の八重咲き大輪種です。生育が旺盛で作りやすい品種です。

#### 【やしま芯黒】

濃いオレンジ色の花卉で芯が黒くなる大輪種です。よく茎が伸びてかたいのが特徴です。花卉数が非常に多くボリュームがあります。

### 2 栽培条件

キンセンカは、南ヨーロッパ原産の耐寒性一年草です。暖かい地域では簡単な霜よけで冬越しできます。

日当たりと水はけのよい場所を好み丈夫で育てやすい種類ですが、風とおしが悪いとうどんこ病が出やすいので注意します。

中性に近い弱酸性 (pH6.0～6.5) の土を好み、酸性土壌を嫌います。

またキンセンカは連作を嫌うので、植え付ける場所は毎年変えるようにします。キク科の植物なので、キク、アスター、ヒマワリなどの後作は避けてください。

### 3 栽培管理

#### 1) 育苗

は種の時期は9月上旬から11月上旬で、一般的には移植栽培が行なわれます。

128 穴のセルトレーでは各セルに1粒ずつまきますが、は種箱では3cm 間隔に点まきにして、タネがかくれるほどの土をかぶせ、たっぷりと水やりします。発芽キンセンカは乾燥を特に嫌うため、寒冷紗を直掛

けするなどして乾燥防止に努めます。

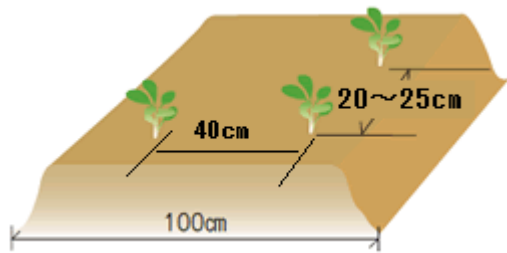
5～10日で発芽してきます。発芽後は日当たりと風とおしのよい場所で管理し、本葉が2～3枚になったら葉が触れあわない程度に適宜間引きを行います。

2) 植付け準備

日当たりと水はけのよい場所に、植付け1週間前までに石灰 50 g / m<sup>2</sup>を施し、良くすき込んでおきます。基肥には、堆肥 1 kg / m<sup>2</sup>とリン酸と化成肥料 (8-8-8) 200 g / m<sup>2</sup>程度を施用し、土とよく混ぜておきます。

3) 植付け

本葉 5～6 枚の頃、幅 1 m の畝に条間 40 cm、株間 20～25 cm で 2 条に植付けします。1 条植の場合は、畝幅 50 cm に株間 20 cm とします。



活着を良くして初期生育をすすめるために、植付けの前日までに十分かん水しておきます。また、植え付け後1週間程度は十分にかん水して植え痛みを防ぎます。

秋まきの場合は、寒さが来るまでに十分根を張らせることが大切です。また、冬の間の乾燥にも注意が必要です。

4) 摘心

本葉が10枚の頃、葉を6～7枚残して摘心することで、株張りが良くなり花数が増加します。摘心後には、花数を増やすため追肥を与えます。分枝が伸び始めたら除草を兼ねて土寄せをします。

5) 倒伏防止

摘心後 30～40 日頃、地上 30～40 cm ぐらいの高さにフラワーネットを張り、株の倒伏を防ぎます。1 条植の場合は、通路に支柱を立てテープを通すとともに、所どころに仕切りのテープを渡して株を押さえるようにします。

6) 追肥

追肥は、化成肥料 (8-8-8) 150～200 g / m<sup>2</sup>を植付け 1 か月後と出らい前の 2 回に分けて与えます。

収穫・調整

収穫は、分枝したところから採花し、寒い時期には5分咲き、暖かい時期はやや堅い目に採花します。下葉を2～3枚取り除き、長さを揃えて結束します。葉を傷めるので水揚げをしないままで調整し、結束後水揚げをしながら出荷を待ちます。

主な病害虫

生育初期から中期にかけては、短そ病、シンクイムシ、ヨトウムシ類に注意が必要です。出らい後は、うどんこ病、アブラムシ類に注意します。

月	8	9	10	11	12	1	2	3	4	品 種
年内出し	○ は種	▲ 定植		□ 収穫						オレンジスター ゴールドスター
彼岸出し		○	▲	✕ 摘心						黄金中安